

説教題：「えこひいきをしない」

**聖書朗読：ヤコブの手紙 2:1-13**

<sup>1</sup>私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。<sup>2</sup>あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、立派な服装をした人がはいつて来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいつて来たとします。<sup>3</sup>あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい。」と言うとすれば、<sup>4</sup>あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。

<sup>5</sup>よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。<sup>6</sup>それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。<sup>7</sup>あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。

<sup>8</sup>もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行ないはりっぱです。<sup>9</sup>しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。<sup>10</sup>律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。<sup>11</sup>なぜなら、「姦淫してはならない。」と言われた方は、「殺してはならない。」とも言われたからです。そこで、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。

<sup>12</sup>自由の律法によってさばかれる者らしく語り、またそのように行ないなさい。<sup>13</sup>あわれみを示したことの無い者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです。

皆さん、おはようございます。また皆さんにお会いできて嬉しいです。先月、私は新約聖書の中で最も好きな書物であるヤコブの手紙を通しての説教シリーズを始めました。その第1章を2回に分けて説教しました。ヤコブはその第1章で、いくつかの異なるトピックを紹介しました。今日の説教では、第2章の前半を取り上げますが、この部分でヤコブは一つの主要なトピックを取り上げています。それは、教会でえこひいきをすることの問題です。ヤコブは、教会に出席する人々に対して、金持ちを貧乏人よりえこひいきしないようにと勧めています。そうすることは正しくありません。それで、ヤコブはその理由を説明します。今日のメッセージのタイトルは「えこひいきをしない」です。

ヤコブ 2章 1 - 4 節を読みましょう - 「<sup>1</sup>私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。<sup>2</sup>あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、立派な服装をした人がはいつて来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいつて来たとします。<sup>3</sup>あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。」と言い、貧し

い人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい。」と言うとすれば、<sup>4</sup>あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。」

ヤコブがイエス・キリストを「私たちの栄光の主」と呼んでいることに注目してください。私たちの主は栄光に満ちた素晴らしい方であり、私たちクリスチャンは心から主に従い、主のご性質を反映すべきです。私たちは、すべてのことにおいて、イエスの品性を反映すべきなのです。イエスは、えこひいきはなさらなかったのです。イエスは、貧乏人よりも金持ちを、聖なる者よりも不浄な者を、才能ある者よりも才能のない者を優遇されませんでした。宗教的偽善者や当時の不敬虔な宗教指導者たちに対しては、時に厳しい言葉を投げかけられましたが、イエスは人々を平等に扱われました。

その一例を挙げましょう。ある晩、ある家での集まりで、イエスは罪人たち、つまり罪人や徴税人たちと飲み食いしていたので、律法学者やパリサイ人たちから批判されました。徴税人であったマタイが改心してキリストに従い始めた日、マタイは多くの友人を招いて自分の家でイエスに会わせました。

マルコ 2:15-17 を読みましょう – <sup>15</sup>それから、イエスは、彼の家で食卓に着かれた。取税人や罪人たちも大ぜい、イエスや弟子たちといっしょに食卓に着いていた。こういう人たちが大ぜいいて、イエスに従っていたのである。<sup>16</sup>パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちといっしょに食事をしておられるのを見て、イエスの弟子たちにこう言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしょに食事をするのですか。」<sup>17</sup>イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

救いへの道を開くのは、自己義的な宗教家ではなく、自分の必要性を認識している人、自分が救いを必要としている罪人であることを認識している人です。様々なタイプの罪人がイエスと共に食事をし、イエスは彼らを歓迎し、福音を伝えました。多くの人がイエスに従うようになりました。イエスに従う私たちは、イエスの寛容さを反映し、困っているすべての人を教会に迎え入れるべきです。

社会的に受け入れられるに値しないと思われる人を差別するというこの問題は、以前説教で聞いた話を思い出させます。1970年代のアメリカで、社会規範が変わりつつあった頃の話です。クリスチャン家庭のある青年が大学に進学し、学校の休み時間に帰宅すると、服装が変わっていました：彼はカジュアルな服装を身に着け、裸足で歩きました。日曜日になると、両親は家族が教会に行くことを告げ、少年は自分も参加すると言いました。両親は、彼が通常の保守的な服装ではなく、カジュアルな服を着て、靴も靴下も履かずに教会に出席したことに驚きました。この話を聞いた伝道師によると、両親は「その格好にもかかわらず、彼を教会に連れてくる良識があった」そうです。教会の礼拝が終わると、両親は息子がいろいろな人と話し、教会での時間を楽しんでいるのを見ました。家に帰る時間になって、少年は車に乗り込み、両親にこう言いました：「裸足で教会に来ると、本当

のクリスチャンがわかるんだ！」 どうやらその少年は、教会に出席するときの服装を不服とする一部の教会員から批判を受けていたようでした。当時は、アメリカの中流階級のクリスチャンの多くが、教会に出席するときは一番いい服を着るべきだと信じていた時代です。聖書の中に、実際そのように教えてはいない考えです。しかし正しい教会の態度と見えたのです。その青年は教会の何人かの人たちから批判されましたが、彼の正統的ではない服装にもかかわらず、彼を暖かく迎え入れた人たちもいました。私たちは、外見で人を判断してはいけません。マタイの家での夕食の時にイエスが言われたように、医者が必要なのは自己義的な人ではなく、私たちは皆不完全で救い主が必要なのだと認める人なのです。私たちは皆不完全であり、不完全な兄弟姉妹を受け入れるべきです。

これまでの説教で、私たちクリスチャンが守るべき重要な聖句を引用することがありました。ヨハネの福音書 13 章 34 - 35 節で、イエスは弟子たちにこう言われます：「<sup>34</sup>あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。<sup>35</sup>もしあなたがたの互いの中に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

そしてエペソ 4:32 - 「<sup>32</sup>お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」

ヤコブ 2:1-4 をもう一度読みましょう - 「<sup>1</sup>私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。<sup>2</sup>あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、立派な服装をした人がはいつて来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいつて来たとします。<sup>3</sup>あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。」と言ひ、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい。」と言うとすれば、<sup>4</sup>あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。」

悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。

教会に出席している人の外見が自分の好み（社会的地位、服装の好み、身だしなみ、教育レベル、民族的背景、その他の違いなど）に合わないと判断するとき、あなたはどのような動機で判断しますか？あなたと同じタイプを好みますか？金持ちや才能のある人と付き合うことで、何かを得たいと思っていますか？誰と付き合うか、あるいは付き合わないか、その動機は何ですか？あるタイプの人を他のタイプの人よりも好んだり、特定のタイプの人を避けたいのはなぜでしょうか、自問自答して評価してみましょう。あなたは利己的な動機で判断していませんか？

ローマ 2:11 - 「神にはえこひいきなどはないからです。」

ヨブ 34:12 - 「神は決して悪を行なわない。全能者は公義を曲げない。」

そしてヨブ 34:19 - 「この方は首長たちを、えこひいきせず、貧民よりも上流の人を重んじることはない。なぜなら、彼らはみな、神の御手のわざだから。」

申命記 10:17-18 – 「<sup>17</sup>あなたがたの神、主は、神の神、主の主、偉大で、力あり、恐ろしい神。かたよって愛することなく、わいろを取らず、<sup>18</sup>みなしごや、やもめのためにさばきを行ない、在留異国人を愛してこれに食物と着物を与えられる。」  
私たちの偉大な神は偏見を示さず、賄賂を受け取りません。神はみなしごややもめ、さらには外国人をも顧みられます。

日曜日の朝 9 時のキリスト教教育の時間では、旧約聖書の物語を見えています。私はしばしば、創世記 12 章で神がアブラハムを特別な民族の父として召されましたが、それは神がその民族を他の民族よりも愛されたからではないと指摘してきました。それどころか、創世記 12 章 3 節の最後の一文で、神はアブラハムにこう言われています「…地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」イスラエル人だけでなく、すべての国民に手を差し伸べることは常に神のご計画であり、朝 9 時のクラスで私はその例をたくさん紹介してきました。

そして新約聖書では、神があらゆる人々に福音のメッセージを開いておられることがわかります。

ガラテヤ 3:27-29 – 「<sup>27</sup>バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。<sup>28</sup>ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。<sup>29</sup>もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」  
今の時代の教会では、人種による区別、社会階級による区別、男か女かによる区別はあってはなりません。

ペテロは、使徒 10:34-35 でこのことを学びました：「<sup>34</sup>そこでペテロは、口を開いてこういった。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、<sup>35</sup>どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。」

ヤコブに戻って、2 章 5-7 節を読みましょう – 「<sup>5</sup>よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。<sup>6</sup>それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。<sup>7</sup>あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。」

金持ちと付き合ったり、金持ちを優遇したりすることは、貧しい人々の名誉を傷つけることとなります。御存知のように、多くの金持ちはいい人ではありません。彼らの多くは、自分たちの権力を使って自分たちの利益を得ようとし、自分たちの機嫌を損ねた人々に対しては法廷を利用することさえあります。

この5節は興味深いです：「愛する兄弟たちよ、聞け。神は、この世の貧しい人々を、信仰に富み、神を愛する人々に約束された御国を受け継ぐ者として選ばれたのではなかったか。」貧しい人々が抱える社会的、経済的な不利にもかかわらず、いや、貧しい人々が抱える不利のゆえに、神は実際にこれらの人々を「信仰に富み」、「御国の相続人」とする特別な祝福を与えることを選ばれたのです。

このことは、イエスが山上の垂訓で言われたことを思い出させます。マタイ 5:3 – 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」

私にとって、この「山上の垂訓」を読むとき、私が引き出す根本的な教訓は、この地上のキリストの王国にいるためには、この地上での人生で経験する短期的な不利益（たとえば、貧しかったり、嘆き悲しんだり、柔和であったり、迫害されたり）があっても、イエスに従う者であれば、長期的には祝福を受けるということなのです。

この話を聞いて、私は別の話を思い出しました。南米のある大都市で大規模な伝道キャンペーンが行われたときのことです。一連の伝道集会の前に、毎晩の伝道メッセージの終わりに行われる招きの中で、前に出てくる人々のカウンセラーになりたいボランティアのための訓練がありました。服装からして明らかに経済的に貧しいと思われる男性が一人いましたが、彼は熱心に訓練を受けてカウンセラーとして志願しました。伝道キャンペーン初日の夜、多くの人々が招きに名乗りを上げましたが、カウンセラーを割り当てたコーディネーターたちは、明らかに貧しいそのカウンセラーを差別しました。結局、一人の金持ちが遅れてカウンセリング・ルームにやってきたので、カウンセラーはその貧しい男しかおらず、彼は熱心にその金持ちのカウンセリングを引き受けた。伝道キャンペーン2日目の夜、その金持ちは再びカウンセリング・ルームにやってきました。カウンセラーのコーディネーターたちは、彼にもっと立派そうなカウンセラーを割り当てようとしたのですが、その金持ちは「いいえ、前の晩に受けたカウンセリングに十分満足しているので、前の晩と同じカウンセラーを希望します」と言いました。

ヤコブ 2:5 – 「よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人々を選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。」その経済的に貧しいカウンセラーは、信仰に富み、カウンセリングに知恵がありました。彼は金持ちをキリストの救いに導いたのでした。

この話を思い出すと、大きな伝道イベントでカウンセリングを担当するコーディネーターの間でも、経済的に貧しい出身であることが外見からわかる男性を差別していたことが悲しくなります。しかし結局、彼は信仰と知恵に富んでいました。この話は明らかに人々に衝撃を与えました。後日、私はアメリカの伝道キャンペーンで案内係のボランティアをしているときに、この話を聞かされたからです。私たちは、恵まれないように見える人々を決して見くびってはいけません。なぜなら、神は彼らに特別な心を持ち、特別な信仰の尺度を与えておられるからです。

ヤコブ 2:8-11 を読みましょう。 - 「<sup>8</sup>もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行ないはりっぱです。<sup>9</sup>しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。<sup>10</sup>律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。<sup>11</sup>なぜなら、「姦淫してはならない。」と言われた方は、「殺してはならない。」とも言われたからです。そこで、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。」

ヤコブは9節で、偏見を示すことは罪を犯すことだと明確に述べています。数分前、私は旧約聖書のいくつかの箇所を引用し、神が偏見を示されないことを示しました。

申命記 10:17 を読みましょう。 - 「あなたがたの神、主は、神の神、主の主、偉大で、力あり、恐ろしい神。かたよって愛することなく、わいろを取らず、」

神は、墮落した人間がよくするような偏見を示すことも、賄賂を受け取ることもされません。他の箇所でも、神はご自身の模範に従うよう民に勧めています。

申命記 16:18-20 を読みましょう - 「<sup>18</sup>あなたの神、主があなたに与えようとしておられるあなたのすべての町囲みのうちに、あなたの部族ごとに、さばきつかさと、つかさたちを任命しなければならない。彼らは正しいさばきをもって民をさばかなければならない。<sup>19</sup>あなたはさばきを曲げてはならない。人をかたよって見てはならない。わいろを取ってはならない。わいろは知恵のある者の目をくらませ、正しい人の言い分をゆがめるからである。<sup>20</sup>正義を、ただ正義を追い求めなければならない。そうすれば、あなたは生き、あなたの神、主が与えようとしておられる地を、自分の所有とすることができる。」

神は御自分の民が正しい判断で裁くこと、正義を曲げないこと、偏見を示さないことを望んでおられます。そうです、確かです。ヤコブが語っているように、偏見を示すことは罪を犯すことです。

ヤコブ 2:8 で、彼が「王法」と呼ぶものについて言及していることに気づきます：「隣人を自分自身のように愛しなさい。」私たちはこの言葉に聞き覚えがあります。これはモーセの書物の一つであるレビ記 19 章 18 節からの引用です。しかし、私たちが最もよく知っているのは、イエスが語られた言葉としてです。

マタイの福音書 22 章で、イエスは「最も偉大な戒めは何か」と問われた後、この聖句を引用されました。イエスは聴衆に最も偉大な戒めが何であるかを告げられた後、それに関連する第二の戒めも告げられました。

マタイ 22:35-40 を読みましょう - 「<sup>35</sup>そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。<sup>36</sup>「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」<sup>37</sup>そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』<sup>38</sup>これがたいせつな第一の戒めです。<sup>39</sup>『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。<sup>40</sup>律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

最大の戒めは、全身全霊で神を愛することです。第二の戒めは、隣人を自分自身のように愛することです。ヤコブはこの第二の戒めを「王法」と呼んでいます。

神の道德律はすべて重要であり、私たちはそれに従わなければなりません。ヤコブ 2:9-10 をもう一度見ましょう。「<sup>9</sup>しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。<sup>10</sup>律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。」もしあなたが神の掟の一つでも従わないなら、あなたは掟に背く者、つまり掟破りです。偏見を示すことは小さな問題だと思いかもしれませんが、もしあなたが教会で特定の人々に好意を示すなら、それは罪であり、あなたは律法違反者なのです。これが、ヤコブがこの段落で私たちに教えたメッセージです。

今日の節の最後の部分に移りましょう。ヤコブ 2:12-13 – 「<sup>12</sup>自由の律法によってさばかれる者らしく語り、またそのように行ないなさい。<sup>13</sup>あわれみを示したことの無い者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです。」

クリスチャンが従う律法は 自由の律法 です。何年も前に、あるクリスチャンの牧師が自由の律法についてこのように説明するのを聞いたことがあります。それは、何をするにも自由であることではなく、罪の束縛から解放された今、自分になり得るすべてのものになる自由です。聖霊に導かれるとき、私たちは神を喜ばせ、兄弟姉妹や隣人を益とする人生を送ることができます。

しかし、もし私たちがルーズで規律に欠けた生活を送り、偏見を示す罪などの罪を犯すなら、私たちは自由の律法に従って生きていないことで裁かれることになります。私たちは互いに愛し合い、赦し合うべきであり、ある人を他の人より優遇してはいけません。もし私たちが教会で、貧しい人よりも金持ちを、才能のある人よりも才能のない人を優遇するような偏見を示すなら、私たちは罪を犯しているのです。兄弟姉妹に対して自己中心的な判断をしています。そのような判断は自分に跳ね返ってきて、自分が裁かれていることに気づくでしょう。そうではなく、私たちは兄弟姉妹に対して憐れみを示し、完全に愛し合い、互いを受け入れるべきです。このようなあわれみは裁きに勝る、とヤコブは語っています。これが生きる道です。

数分前、私は「王法」について話した：「汝、隣人を己の如く愛すべし。」この聖句は、教会の伝統が「黄金律」と呼ぶもう一つの重要な聖句を思い起こさせます。私はこの聖句で今日の説教を終えようと思います。

私たちが「黄金律」と呼んでいる一節は、山上の説教におけるイエスの言葉にあります。マタイの福音書 7章 12節を読んでみよう。「それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。」

もしあなたが隣人を自分自身のように愛し、自分がされたいと思うように他人と接するならば、あなたは王法を全うし、黄金律を全うし、律法と預言者の教えの中心、つまりヘブライ聖典の中心を全うしていることとなります。これが、私たちが互いに人間関係を築くための基本的な方法です。もし、あなたが王法と黄金律と自由の律法に従うなら、人をえこひいきせず、互いに愛し合い、赦し合い、憐れみと慈悲を示すことになる。あわれみは裁きに勝ります。それがより良い生き方です。